

世界のスキーと日本のスキー、そしてSIAの歴史

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
○ノルウェー、クリスチャニア(オスロ)で最初の競技会が開催。スポーツとして始まる		1769	明和6年		○江戸時代 10代将軍徳川家治の時代
○ノルウェー王室がスキーの勝者に賞を与え国際的スポーツとなる ●1960年代ソンドレ・ノルハイムによりスキー技術がスポーツとして確立「テレマークターン」の原点となる		1860	万延元年		○桜田門外の変
○第一回ジャンプ大会		1879	明治13年		
○ノルウェー・クリスチャニア(オスロ)にスキー学校開設		1880	明治13年		
○フリチョフ・ナンセンがグリーンランドをスキーで横断		1888	明治22年		
○マティアス・ツダルスキーが「山岳スキー術」公表 ●ツダルスキーにより、短めの板・ミゾ無し、踵のあがるビンディング、一本杖が開発され、急斜面でも安全に滑れるリリエンフェルト技術が広まる		1896	明治29年		1903年ライト兄弟が人類初の動力飛行に成功
○第一回大回転競技会(ムッケンコーゲル大会)		1905	明治38年		1904~1905年 日露戦争
	○ハンス・コラー(スイス)がドイツ語講師として札幌農学校赴任。スキーを持参する。	1908	明治41年		
●ゲオルグ・ビルゲリー大佐がツダルスキー山岳スキー術とノルウェー式スキー術をひとつにまとめ、二本杖を使用し、テレマークを取り入れた		1910	明治43年		
○第一回滑降競技大会(ロバート・オブ・カンダハースキー大会)	○テオドール・フォン・レルヒ少佐、高田歩兵第13師団58連隊に着任。長岡外史等にスキー術を講習 ○高田市にて日本初の「越信スキー倶楽部」設立(1月12日)	1911	明治44年		

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
		1914	大正3年		○第一次世界大戦勃発
	○北大教授の遠藤吉三郎が欧州留学から帰国。ノルウェー式スキー術(二本杖)紹介	1916	大正5年		
		1918	大正7年		○第一次世界大戦終結
○アーノルド・ファンク博士がハンネス・シュナイダー主演で、映画「スキーの驚異」を制作		1920	大正9年		
○第1回回転競技(ミューレン・スイス)		1922	大正11年		
	○第1回全日本スキー選手権大会(小樽)	1923	大正12年		○関東大震災
○第1回冬季オリンピック (フランス・シャモニー) ○国際スキー連盟(FIS)設立		1924	大正13年		※冬季オリンピック(参加16カ国258名) クロカン(18Km・50Km)・耐久・リレー・ジャンプのみ採用。日本参加なし
	○全日本スキー連盟(SAJ)設立	1925	大正14年		
○アールベルグ・カンダハー競技会 ○第2回冬季オリンピック(スイス・サンモリッツ)	○冬季オリンピック日本初参加	1928	昭和3年		※冬季オリンピック(参加26カ国464名) 日本より6選手出場
●アントン・ゼーロスによるテンポパラレルシュブングの完成	○ハンネス・シュナイダー来日 (玉川学園の招聘)	1930	昭和5年		○第1回FIFAワールドカップ
○第1回世界選手権大会(スイス・ミューレン) ※現在の世界選手権大会		1931	昭和6年		
○第3回冬季オリンピック (アメリカ・レイクプラシット)		1932	昭和7年		○1934年 忠犬ハチ公像 除幕式
○第4回冬季オリンピック(アルペン競技正式採用) (ドイツ・カルミッシュ・パルテンキルヘン) ※アルペン競技=ダウンヒルとスラローム)	○第5回冬季オリンピックに札幌が立候補 ○札幌大倉山シャンツェ完成	1936	昭和11年		※冬季オリンピック(28カ国755名) 日本からは15名参加
○エミール・アレ「スキーフランセ」発表		1938	昭和13年		
		1939	昭和14年		○第二次世界大戦勃発
○冬季オリンピック(日本・札幌) ※第二次世界大戦で中止		1940	昭和15年		※夏季オリンピック(日本・東京) 冬季同様戦争により中止
○冬季オリンピック(イタリア・コルチナダンベッツォ) ※第二次世界大戦で中止		1944	昭和19年		
		1945	昭和20年		○第二次世界大戦終結(8月15日)

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
○第5回冬季オリンピック(スイス・サンモリッツ) ※日本不参加		1948	昭和23年		○第1回NHKのど自慢大会 ○レルヒ少佐76歳で永眠
○第1回国際スキー教育会議=インタースキー 開催(オーストリア・ツールス)参加9か国		1951	昭和26年		
○第6回冬季オリンピック(ノルウェー・オロス)	○第1回全国高等学校スキー選手権大会 (群馬・水上)	1952	昭和27年		○硬貨式公衆電話機登場 ※冬季オリンピック種もからアルペン複合が 廃止され大回転が加わる
	○フランスのピエール・ギョーとアンリ・オレ が来日。全国10か所で指導。	1954	昭和29年		
		1955	昭和30年		○ハンネス・シュナイダー65歳で永眠
○第7回冬季オリンピック (イタリア・コルチナダンペッツォ) ○トニーザイラー3冠王	○オリンピックSLで猪谷千春が銀メダル	1956	昭和31年		○冬季オリンピック日本から7名参加 SIA元会長杉山進も参加
	○オーストリアスキー教程(日本語訳)発刊	1957	昭和32年		
	○オーストリア職業スキー教師連盟会長兼 アールベルグスキー学校校長のルディ・ マツ来日	1958	昭和33年		○東京タワー完成
○第8回冬季オリンピック(アメリカ・スコーパー)		1960	昭和35年		
●トム・シムスによりスノーボードの原型が 開発される	○クルッテン・ハウザー来日	1963	昭和38年		
○第9回冬季オリンピック (オーストリア・インスブルック)		1964	昭和39年		○東京オリンピック開催
●アメリカミシガン州にてシャーマン・ポッペン が雪上サーフィン用に2本のスキーを1本に したスナファー(Snurfer)が始まる		1965	昭和40年		
	○スキージャーナル創刊	1966	昭和41年		
○第10回冬季オリンピック(フランス・グルノーブル) キリーが史上2人目の3冠王	○冬季オリンピック初めての日本人女子 出場	1968	昭和43年	○任意団体として日本職業スキー教師連盟(SIA) 設立※初代会長:西村一良	○1966年 ビートルズ来日 ○1968年 3億円事件・少年ジャンプ創刊
		1969	昭和44年	○第1回スキー教育会議開催(乗鞍) ○用具研究委員会発足 ○第1回会員研修会開催	

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
○1970年代アメリカでテレマークスキーが復活		1970	昭和45年	○第1回会委員認定会開催(網張)	○公衆電話3分打切制スタート
○第一回ISIA総会 (ドイツ・カルミッシュパルテンキルヘン)		1971	昭和46年	○第1回会員検定会実施(苗場) ○SIA西村会長退任	○マクドナルド銀座一号店オープン
○第11回冬季オリンピック大会(日本・札幌)		1972	昭和47年	○用具研究部設立 ○SIA公認スキー学校制度実施 ○2代目会長:猪谷六合雄会長就任	○浅間山荘事件
	○日本初のワールドカップ開催(苗場)	1973	昭和48年	○SIAメダル検定制度実施	
		1974	昭和49年	○第1回用具ゼミナール開催 ○スキー学校部設立	○巨人長嶋引退
		1975	昭和50年	○第1回SIAフェスティバル開催(万座) ※イタリアチーム参加 ○第1回準会員検定会実施 ○SIAスキー技術委員会発足 ○日本スキー教師連盟と名称変更 ○SIA指導体系発表	
○第12回冬季オリンピック (オーストリア・インスブルック)		1976	昭和51年		○およげたいやきくん大ヒット
●ジェイク・バートン・カーペンターが世界初の スノーボードメーカー「BURTON SNOWBOARD」設立		1977	昭和52年	○SIAオフィシャルスキーマニュアル初版発刊 ○テストインターナショナル実施 ○SIA猪谷会長退任 ○3代目会長:若林省三会長就任	
	○全国スキー安全対策協議会設立 ○スキーグラフィック創刊	1978	昭和53年	○第1回環太平洋会議開催 ○第1回技術部員選考会開催 ○第1回スキー学校長会議開催 ○猪谷六合雄会長退任	
○第11回インタースキー(日本・蔵王)	●MOSS Snow stickより国内でスノー ボード販売開始	1979	昭和54年	○公認スキー学校賠償責任保険に一括 加入契約	○アニメドラえもん放送開始
○第13回冬季オリンピック (アメリカ・レイクプラシッド) ○第10回ISIA総会(スイス・ロカルノ) ○第1回世界スキー教師選手権(フランス)	○ジャンプワールドカップ日本初開催 (日本・札幌)	1980	昭和55年	○SIA若林会長退任 ○4代目会長:天野誠一会長就任	○ジョンレノン銃殺

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
		1981	昭和56年	○社団法人日本職業スキー教師協会設立 ○4代目会長:天野誠一会長就任 ○SIAオフィシャルスキーメソッド改訂版発刊 改訂版発刊 (OSMとして2冊目)	
	●小倉貿易がBURTON SNOWBOARDを 輸入販売開始	1982	昭和57年		
	●北米スノーボード協会とリンクするかたちで 日本スノーボード協会(JSBA)発足 ○大型室内スキー場・ザウスオープン	1983	昭和58年	○SIA支部制度制定	○任天堂よりファミコン発売
○第14回冬季オリンピック (ユーゴスラビア・サラエボ)		1984	昭和59年	○第10回SIAフェスティバル(斑尾) ※フランスチーム参加 ○SIA支部制度施行 ○第1回支部会議	○グリコ森永事件
		1985	昭和60年	○スキー修学旅行小委員会設立	
	○商業スポーツ施設指導者養成事業団体 (連絡)協議会発足	1987	昭和62年	○寛仁親王殿下、名誉総裁に御就任	○「私をスキーに連れてって」が公開
○第15回冬季オリンピック(カナダ・カルガリー)		1988	昭和63年	○「SIAオフィシャルメソッド全面改訂新版」 発刊 (OSMとして3冊目) ○SIA設立20周年記念祝賀会開催	○青函トンネル開通 ○クルッケンハウザー82歳で永眠
		1989	平成元年	○寛仁親王殿下、総裁に御就任	○昭和天皇崩御 昭和から平成へ
		1990	平成2年	○SIA「社会体育指導者の知識・技術審査 事業」の事業認定団体として認可	○第1回大学入試センター試験実施 ○人面魚・オグリキャップが話題に
○第16回冬季オリンピック (フランス・アルペールビル) ○第22回ISIA総会(日本・安比) ○第7回世界スキー教師選手権(日本・安比)		1992	平成4年		○バルセロナ五輪岩崎京子金メダル ○尾崎豊死去 ○金さん・銀さん100歳
○第17回冬季オリンピック (ノルウェー・リレハンメル)		1994	平成6年	○第20回SIAフェスティバル(斑尾) ※カナダ・アメリカより講師参加	○1993年 皇太子さま雅子さまご結婚
○第15回インタースキー(日本・野沢) ○第25回ISIA総会(日本・野沢)		1995	平成7年	○スノーボード教師検定初開催(斑尾)	○1月 阪神淡路大震災 ○3月 地下鉄サリン事件

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
		1996	平成8年	○SIAスキー教程「SIAオフィシャルメソッド」 発刊（OSMとして4冊目：SB・TM掲載開始） ○SIA天野会長退任 ○5代目会長：杉山進会長就任	
○第18回冬季オリンピック(日本・長野)	○冬季オリンピック日本開催(長野) ※日本史上最多のメダルラッシュ	1998	平成10年	○SIA設立30周年記念式典・祝賀会開催	○スノーボード2種目がオリンピック種目に ○1999年 団子3兄弟大ヒット
		2000	平成12年	○SIAフェスティバル(斑尾)にて初のスノー ボードデモンストレータが決まる	
		2001	平成13年	○「SIAの理念」制定	○アメリカ同時多発テロ
○第19回冬季オリンピック (アメリカ・ソルトレイク)	○大型室内スキー場・ザウス閉鎖	2002	平成14年	○「BOLD TRACKS(障害者スキー教本)」 発刊	
		2003	平成15年	○「スキーの日」制定(財)全日本スキー連盟 (財)全日本スキー連盟日本鋼索交通協会と) ○SIAスキー教程「SIAオフィシャルメソッド/ /The Ski Book」発刊（OSMとして5冊目）	○千と千尋の神隠しアカデミショー受賞
		2005	平成17年	○「トッププロ・SIAデモが教えるスキー欠点 克服70」発刊 ○初代会長西村一良氏98歳で永眠 ○テレマークスキー認定教師資格開始	○2005年冬ソナ大ヒット
○第20回冬季オリンピック(イタリア・トリノ)		2006	平成18年	○SIA名誉顧問三浦敬三氏101歳で永眠	
		2007	平成19年	○「最新のオーストリアスキー教程」の 日本語版発刊	
		2009	平成21年	○SIA杉山会長退任 ○6代目会長：馬淵雄一会長就任	
○第21回冬季オリンピック (カナダ・バンクーバー)		2010	平成22年	○「トッププロ・SIAデモが教えるスキーの 基本」発刊	
	○日本スキー発祥100年	2011	平成23年	○第37回SIAフェスティバル(安比)は ※東日本大震災の影響により中止 ○公益社団法人に認定(11・30) ○公益社団法人日本職業スキー教師協会 登記(12・1)	○3月11日東日本大震災発生

世界のスキー界	日本のスキー界	西暦	年号	SIAの出来事	時事
	○長野県スキー発祥100年	2012	平成24年	○総裁、寛仁親王殿下 薨去(6. 6) ○SIA公式メソッド発刊(OSMとして6冊目)	○スカイツリー開業
○第22回冬季オリンピック(ロシア・ソチ)	○冬季オリンピックでスノーボード初メダル 男子HP(銀・銅)・女子PLGS(銀)	2014	平成26年	○彬子女王殿下総裁御就任 ○AP・SB・TMでの3本柱体制スタート	○御嶽山噴火
		2015	平成27年	○SIAフェスティバル(安比)にて初のテレ マークデモンストレータが決まる	
		2016	平成28年	○公益社団法人日本プロスキー教師協会 に名称変更 ○SIA馬淵会長退任 ○7代目会長:中島英臣会長就任	○軽井沢スキーバス転落事故
○第23回冬季オリンピック(ピョンチャン・韓国)		2018	平成30年	○新資格制度(4段階化)がスタート	

SIAフェスティバル

西暦	回数	開催地	招待国	トピックス
1975	第1回	万座	イタリアチーム参加	
1976	第2回	万座	オーストリアチーム参加	
1977	第3回	万座	西ドイツチーム参加	
1978	第4回	万座	アメリカ・カナダ・NZチーム参加	
1979	第5回	奥志賀		
1980	第6回	サンバレー	スイスチーム参加	
1981	第7回	サンバレー	フランスチーム参加	
1982	第8回	高天ヶ原	イタリアチーム参加	
1983	第9回	安比	オーストリアチーム参加	
1984	第10回	斑尾	フランスチーム参加	
1985	第11回	斑尾	西ドイツチーム参加	
1986	第12回	安比	カナダチーム参加	
1987	第13回	斑尾	アメリカチーム参加	
1988	第14回	斑尾	スウェーデンチーム参加	
1989	第15回	安比	スペインチーム参加	
1990	第16回	斑尾	スイスチーム参加	
1991	第17回	斑尾	11カ国参加	
1992	第18回	安比	16カ国参加	
1993	第19回	斑尾	オーストリア・フランスより講師参加	
1994	第20回	斑尾	カナダ・アメリカより講師参加	
1995	第21回	斑尾	スイス・ドイツより講師参加	
1996	第22回	志賀	イタリア・スペインより講師参加	
1997	第23回	斑尾	オーストラリア・NZより講師参加	
1998	第24回	Mt.レースイ	アメリカより講師参加	
1999	第25回	安比	アメリカより講師参加	
2000	第26回	斑尾	アメリカより講師参加	SIA初のスノーボードデモンストレータ決まる
2001	第27回	安比	スイスより講師参加	
2002	第28回	斑尾	カナダ・アメリカより講師参加	
2003	第29回	安比	イタリアより講師参加	
2004	第30回	斑尾	イタリアより講師参加	
2005	第31回	安比	フランスより講師参加	
2006	第32回	Mt.レースイ	オーストリアより講師参加	
2007	第33回	安比	スイスより講師参加	
2008	第34回	ニセコアンヌプリ	ドイツより講師参加	
2009	第35回	安比	フィンランドより講師参加	
2010	第36回	志賀	カナダより講師参加	
2011	第37回	安比		東日本大震災の影響により中止
2012	第38回	キロロ	イタリアより講師参加	
2013	第39回	安比	スイスより講師参加	
2014	第40回	スキージャム勝山	スイスより講師参加	
2015	第41回	安比		SIA初のテレマークデモンストレータが決まる
2016	第42回	Mt.レースイ	ドイツより講師参加	
2017	第43回	志賀	アメリカより講師参加	
2018	第44回	安比	イタリアより講師参加	

ISIA総会

西暦	回数	国	開催地	トピックス
1971	第1回	ドイツ	ガルミッシュパルテンキルヘン	日本加盟
1972	第2回	フランス	イソラ2000	5月 杉山進出席
1973	第3回	オーストリア	キッシュタインホルン	5月 杉山進出席
1974	第4回	リヒテンシュタイン	マルブン	5月 若林理事長・黒岩達介・杉山進 3名で出席
1975	第5回	スウェーデン	リクスグレンセン	
1976	第6回	スペイン	バケーラベレー	
1977	第7回	カナダ	バンフ	
1978	第8回	イタリア	シシリー	
1979	第9回	オーストリア	セルデン	
1980	第10回	スイス	ブルラー	
1981	第11回	アメリカ	シルバンデルランチ	
1982	第12回	スペイン	アイグアグラハ	
1983	第13回	フランス	ティーニュ	
1984	第14回	ユーゴスラビア	ポルトロージェ	
1985	第15回	ニュージーランド	クイーンズタウン	
1986	第16回	スコットランド	エビモア	
1987	第17回	リヒテンシュタイン	ファドーツ	
1988	第18回	アンドラ	アンドララベラ	
1989	第19回	ノルウェー	ブルタール	
1990	第20回	アルゼンチン	バリローチェ	
1991	第21回	トルコ	アンタルヤ	
1992	第22回	日本	安比	
1993	第23回	イタリア	ローマ	
1994	第24回	オランダ	フーフエルドープ	
1995	第25回	日本	野沢	
1996	第26回	フィンランド	ロバニエミ	
1997	第27回	スイス	サンモリッツ	
1998	第28回	チェコ	ハラコフ	
1999	第29回	ノルウェー	バイトスローレン	
2000	第30回	スペイン	シェラネバタ	
2001	第31回	カナダ	ウイスラー	
2002	第32回	アルゼンチン	バリローチェ	
2003	第33回	スイス	クランモンタナ	
2004	第34回	クロアチア	ロヴィニ	
2005	第35回	フィンランド	レヴィ	
2006	第36回	ブルガリア	ポロヴェッツ	
2007	第37回	韓国	ヨンピョン	
2008	第38回	イタリア	ジェソロ	
2009	第39回	スロベニア	マリボール	
2010	第40回	スコットランド	アヴォモア	
2011	第41回	オーストリア	サンアントン	
2012	第42回	ポーランド	クラコー	
2013	第43回	アルゼンチン	ウシュアイア	
2014	第44回	フィンランド	ヴォカッティ	
2015	第45回	アルゼンチン	ウシュアイア	
2016	第46回	スイス	レンツァーハイデ	
2017	第47回	スイス	サムナウン	
2018	第48回	ドイツ	ガルミッシュパルテンキルヘン	

インタースキー

インタースキーとは・・・

ヨーロッパでは「オーストリア派」「フランス派」と世界でも大きく2分化されてきた。しかし近年では競技の世界でも大きな滑りの違いがなくなってきたこと、そして指導の現場でも「統一したものを」を合言葉にインタースキー運動があった。各国が違いを主張するのではなく、「安全に滑るためには？」「子供を教えるためには？」など同じ項目について各国が考えるという方向へ変わった。現在ではスキーだけでなく、スノースポーツ全般のワークショップを主体とした研究発表や各国の参加者の情報交換やコミュニケーションの場となっている。各国のフォーメーション発表会はとも見ごたえがある。4年に一度の開催。

西暦	回数	国	開催地	トピックス
1951	第1回	オーストリア	ツールス	国際スキー教育会議として開催
1953	第2回	スイス	ダボス	
1955	第3回	フランス	バルディゼール	
1957	第4回	スウェーデン	ストルリーン	
1959	第5回	ポーランド	ザコパーネ	
1962	第6回	イタリア	モンテポンドーネ	
1965	第7回	オーストリア	バドガシュタイン	
1968	第8回	アメリカ	アスペン	「世界のスキーをひとつに」がテーマ
1971	第9回	ドイツ	ガルミッシュパルテンキルヘン	日本初参加。未曾有の雪不足だった
1975	第10回	チェコスロバキア	ビソケタトリ	公式参加。初めてデモンストレーションを行った。
1979	第11回	日本	蔵王	「ポールを使用した指導法」発表
1983	第12回	イタリア	セクステン	SIA・SAJ合同で代表団を結成
1987	第13回	カナダ	バンフ	
1991	第14回	オーストリア	サンアントン	
1995	第15回	日本	野沢	
1999	第16回	ノルウェー	バイトスローレン	
2003	第17回	スイス	クランモンタナ	
2007	第18回	韓国	ピョンチャン	
2011	第19回	オーストリア	サンアントン	
2015	第20回	アルゼンチン	ウシュアイア	
2019	第21回	ブルガリア	パンポロボ	

世界スキー教師選手権

世界スキー教師選手権とは・・・

ISIA加盟国から出場者を集め、各国の友好親善を深め、併せて技術向上を目的として競技会を開催している。2年に1度の開催

西暦	回数	国	開催地	トピックス
1980	第1回	フランス	ブルラー	
1982	第2回	イタリア	アプリカ	
1984	第3回	オーストリア	ヒンタートウクス	
1986	第4回	スイス	アローザ	
1988	第5回	アンドラ	アリンサル	
1990	第6回	イタリア	アダメロ	
1992	第7回	日本	安比	第22回国際スキー教師連盟総会同時開催
1994	第8回	スウェーデン	ベンダーレン	
1997	第9回	スイス	サンモリッツ	
2001	第10回	オーストリア	オーバーグルグル	
2005	第11回	フィンランド	レヴィ	富井正一、松居文智、久慈 修、前田祐美子、山本 治、兒玉伊佐央、秋山周二
2009	第12回	スロベニア	マリボール	佐々木常念、久慈 修、伊藤幸治、古谷正臣、藤本剛士、佐藤まなみ
2013	第13回	ブルガリア	パンポロボ	山本 治、兒玉伊佐央、高本 稔、湯下大地、小林和幸、福田 咲／山本治大回転2位。日本人初の表彰台
2017	第14回	スイス	サムナウン	長谷川勝彦、松崎健克、的場佑樹、可児 徹、高本 稔、佐々木常念、湯下万里